

○渡辺高志、塚田勇輝（農林水産消費安全技術センター農薬検査部化学課）

1. CIPAC とは

CIPAC（Collaborative International Pesticides Analytical Council Limited：国際農薬分析法協議会）は、農薬及び衛生害虫防除薬の原体・製剤中の有効成分の分析方法、製剤の物理化学的性状の試験方法の確立を行う国際的な非営利・非政府組織として 1971 年にイギリスで設立され、現在は各国の規制当局担当者（Official Chemist）33 名（25 カ国）のフルメンバーで構成されている（2015 年 7 月現在）。

ギリシャ・アテネのロイヤルオリンピックホテルにおいて、2015 年 6 月 15 日から 18 日まで開催された第 12 回 CIPAC/FAO/WHO 合同会合、シンポジウム及び第 59 回年次会合に出席したので、会議の概要を紹介する。日本からは、FAMIC の他に住友化学株式会社及び三井化学アグロ株式会社が出席した。

2. 第 12 回 CIPAC/FAO/WHO 合同会議（6 月 15 日）

各種団体の活動状況として、FAO から、農薬に係る国際会議及びトレーニング・ワークショップの開催、ホームページ上での新たな文書の公開、各種ガイドラインの発行状況、農薬登録のためのサポートツール開発、アフリカにて実施した技術協力プロジェクトの報告、WHO から、新たな病虫害防除剤の勧告、長期残効性蚊帳の強度の評価方法の検討、VCAG（Vector Control Advisory Group）における 8 つの新たなパラダイムの確立、WHOPES（WHO Pesticide Evaluation Scheme）評価中の製剤の報告、CIPAC から、ガイドラインについてのコメント評価について報告があった。

粗悪な農薬及び衛生害虫防除薬が流通することを避けるため、FAO 及び WHO は共同して、これらの原体及び製剤に係る FAO/WHO 規格の設定を進めている。当該規格を設定す

Report on the 2015 CIPAC Meetings

○Takashi Watanabe and Yuki Tsukada

(Agricultural Chemicals Inspection Station, Food and Agricultural Materials Inspection Center)

The CIPAC/FAO/WHO Meetings were held in Athena, Greece from June 15 to 18. In the 12th CIPAC/FAO/WHO Open Meeting, the summary of actions of FAO, WHO and CIPAC after last meetings and the review of FAO/WHO specification for pesticides were reported. In the 59th CIPAC Technical Meeting, results of collaborative studies for establishing analytical methods of technical materials or formulations were reported.

るための会議として、本会合に先立ち、FAO/WHO 合同農薬規格会議（Joint FAO/WHO Meeting on Pesticide Specification、以下「JMPS」という。）が非公開会合として6月10日から6月13日まで開催された。その概要についてJMPSより、FAO/WHO規格設定に係るマニュアルの改正についてCrop Life International及びAgroCareより提案のあった事項（新剤型のコード、原体同等性の判断基準等）を考慮し、2015年末までに第1版の第3回改訂版が発行されること、データ提出の際のチェックリストの整備等について報告があった。

また、FAO/WHO規格の検討結果として、FAOより、農薬・製剤の規格について9成分が公表、3成分が取りまとめ中、5成分が保留、WHOより、WHO規格とFAO/WHO規格について、両規格を合わせて9成分が公表、24成分が取りまとめ中、4成分が保留と報告された。また、2016年におけるFAO規格、WHO規格及びFAO/WHO規格の検討予定が報告された。

3. CIPAC シンポジウム（6月16日）

口頭発表は16題行われ、模造品（counterfeit）や違法品（illegal）の話題が6題を占めており（昨年は2題）、欧州では並行輸入（parallel imports）が多く、これらの対策に苦心しているという印象を受けた。また、ポスターセッションは10題であった。

4. 第59回CIPAC年次会議（6月17日）

（1）製品の品質検査結果

各国のOfficial Chemistより、当該国内の市場で流通している製品の品質検査結果について、検査件数と違反件数及びCIPAC関連の活動への参加状況が報告され、当方より2014年度分の有効成分の種類と含有量、物理的・化学的性状及びラベルの検査結果として、22製品を検査し、違反は0件であったこと、シルチオフアムの大規模試験に参加したことを報告した。

（2）共同実験結果

共同実験結果として、次の有効成分について報告があった。農薬の概要、分析方法、クロマトグラム、参加した機関、分析結果、統計処理の結果、考察の順で紹介された（小規模：小規模共同実験、大規模：大規模共同実験）。

①クロラントラニリプロール（デュポン、小規模）

HPLCによるクロラントラニリプロールの原体（TC）及び製剤（FS、WG、SC）の分析法の小規模共同試験の結果を報告。内部標準法と絶対検量線法による分析結果が示され、バラツキの小さい内部標準法で大規模共同試験に進みたいと提案。

②フェナザキン（GOWAN、小規模）

HPLCによるフェナザキンのTC及び製剤（SC、EC）の分析法の小規模共同試験の結果を報告。TC及びSCは、アセトニトリル/水の逆相系による分析であるが、ECは、酢

酸エチル/イソオクタンの順相系による分析であった。統計上、問題ない結果が示され、大規模共同試験に進みたいと提案。

③シルチオフアム（モンサント、大規模）

HPLC によるシルチオフアムの TC 及び製剤（FS）の分析法の大規模共同試験の結果を報告。内部標準法と絶対検量線法による分析結果が示され、バラツキの小さい内部標準法を CIPAC 法としたいと提案。

④ピリプロキシフェン（住友化学、小規模）

ピリプロキシフェンの TC の現行の CIPAC 法（CIPAC 715/TC/M）を新剤型の MR（Matrix Release）に適用するための小規模共同試験の結果を報告。統計上問題ない結果が得られたことから、CIPAC 法にしたいと提案。

（3）その他の技術的な案件

その他、技術案件として、次のとおり報告があった。

①ピリプロキシフェン MR の溶出挙動（住友化学、試験法）

MR の溶出挙動を評価するための方法（MT 法）について、小規模共同試験結果を報告。統計上問題ない結果が得られたことから、CIPAC 法にしたいと提案。

②粉立ちの評価法である MT 171 の修正（バイエル、試験法）

不適切となった古い参考文献の削除等、語句の修正を提案。

③共同試験結果の評価に HorRat 値を使用することの提案（バイエル、評価法）

HorRat 値を用いて、共同試験結果が適切であるか評価することを提案。

共同実験の報告結果は、年次会議の後に開催された非公開会議で審議された。

次回の CIPAC 関連会合は、日本・東京で開催される予定となっている。